

科目名	社会福祉原論 A		科目コード	W31003	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-04. H		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、社会福祉政策を学ぶ。また、生活問題を抱えることが自己責任として捉えられてきたことについて、科学的に認識することによって、そもそも社会福祉という営みが、どのように人々に受け入れられていったのかについて講義する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	社会福祉政策及び社会福祉の制度を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉とは何か			社会福祉と「福祉」との違い、社会福祉の定義				社会福祉の定義を調べて、発表する		
第2回	社会福祉の存在意義とは			社会福祉の存在理由を問う						
第3回	社会福祉政策と社会問題①			社会福祉政策の対象とは						
第4回	社会福祉政策と社会問題②			社会福祉の対象としての生活問題				指定論文を複写		
第5回	社会福祉政策の現代的課題			社会的排除と社会的包摂						
第6回	社会福祉の歴史を学ぶにあたって			社会福祉の歴史を学ぶ必要はないか？						
第7回	欧米の社会福祉の歴史①			欧米の前近代社会における社会福祉の歴史						
第8回	欧米の社会福祉の歴史②			欧米の近代社会における社会福祉の歴史①						
第9回	欧米の社会福祉の歴史③			欧米の近代社会における社会福祉の歴史②						
第10回	欧米の社会福祉の歴史④			欧米の現代社会における社会福祉の歴史①						
第11回	欧米の社会福祉の歴史⑤			欧米の現代社会における社会福祉の歴史②						
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①			社会福祉政策						
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②			社会福祉における普遍主義・選別主義						
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③			自己決定とパターンリズム、スティグマ・エンパワーメント						
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④			社会福祉政策の国際比較、福祉国家論						
授業方法(オンデマンド、7対1ブレンディング等)	文献講読									
評価方法及び評価基準	試験(客観式・短答式)のみで評価									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後学修	学術雑誌の論文の閲覧について、その都度。指示をする。									
教材教科書参考書	井村圭壮・藤原正範編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房, ISBN:978-4-326-60197-4 岩崎晋也(2018)『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか The principles of Welfare: Why Has Society Been Creating a System of Helping Strangers?』有斐閣, ISBN:978-4-641-17442-9 室田保夫(2018)『社会福祉 新・基礎からの社会福祉』ミネルヴァ書房, ISBN:978-4-623-08295-7 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2024)『社会福祉小六法2024』ミネルヴァ書房, ISBN:未定									
留意点	遅刻・私語厳禁、ただし公共交通機関遅延の場合は、遅延証明書を持参のこと。交通事情や天候によって、オンデマンドとすることがある。									

科目名	社会福祉原論B		科目コード	W31004	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-05.H	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉理論の生成過程の一端を社会事業理論から確認し、現在の社会福祉理論について整理する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 前期と同様									
到達 目標	戦前の社会事業理論が、どのように現在の社会福祉政策や理論につながってくるのか、その歴史的系譜を理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	社会福祉政策と関連政策			社会福祉政策と教育・労働・住宅・医療の各政策						
第2回	相談援助活動と社会福祉政策			相談援助活動と社会福祉政策の関係を探る						
第3回	社会福祉政策・理論研究と社会福祉原 論研究			社会福祉の独自性？						
第4回	社会福祉実践の歴史的系譜			日本における社会福祉援助の源流、医療と社会福祉の分かれ目						
第5回	社会事業理論を学ぶにあたって			社会事業理論と社会福祉理論の連続性						
第6回	社会事業理論としてのケースワーク論			岡本民夫（1973）『ケースワーク研究』ミネルヴァ書房						
第7回	戦前の社会事業理論①			三好豊太郎						
第8回	戦前の社会事業理論②			小澤 一						
第9回	戦前の社会事業理論③			福山政一						
第10回	戦前の社会事業理論④			竹内愛二						
第11回	戦前の社会事業理論⑤			大河内一男・風早八十二						
第12回	戦後の社会福祉理論①			孝橋正一・岡村重夫						
第13回	戦後の社会福祉理論②			新政策論						
第14回	戦後の社会福祉理論③			運動論の源流						
第15回	社会福祉理論の展望			これからの社会福祉理論						
授業方法 (レ ク チャ ー 、 演 習 、 実 験 、 シ ミ ユ レ イ シ ョ ン 等)	文献講読									
評価 方法 及び 評価 基準	社会福祉原論Aと同様									
課題等	社会福祉原論Aと同様									
事前事 後学修	社会福祉原論Aと同様									
教材 教科書 参考書	社会福祉原論Aと同様									
留意点	社会福祉原論Aと同様									

科目名	精神保健福祉援助技術各論A		科目コード	W32026		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWPF3-09.							
区分	社会福祉実践領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉における歴史的展開と現在の活躍場所とその内容を学ぶ。 精神障害者の生きづらさとは何かを学び、それを踏まえたうえで精神保健福祉士の専門性について理解する。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 精神医療福祉の歴史と動向と精神保健福祉士における活動の歴史を説明できる。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉士における活動の歴史			精神保健福祉に関する海外と日本の動向を踏まえ、自立生活支援と精神保健福祉士の流れについて学ぶ。							
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①			ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術							
第3回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②			ソーシャルワークの展開過程							
第4回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要③			精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点							
第5回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①			1アウトリーチ：支援を求める、求めない当事者及び家族へのアプローチ、多問題・社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ							
第6回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②			2インテーク：主訴の把握、スクリーニング、契約							
第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③			3アセスメント：情報から情報分析・解釈、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性等							
第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④			4援助関係の形成技法							
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤			5面接技術とその応用					グループワーク		
第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥			6支援の展開（人、環境へのアプローチ）事例分析					グループワーク		
第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦			7支援の展開（ケアマネジメント）					グループワーク		
第12回	精神保健福祉分野における家族支援の実際①			1精神障害者家族の課題					グループワーク発表 ポスター作成		
第13回	精神保健福祉分野における家族支援の実際②			2家族理解の変遷					グループワーク		
第14回	精神保健福祉分野における家族支援の実際③			3家族支援の方法							
第15回	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）			連携の意義と目的							
授業方法（ゼミナール、PBL、ブレインストーミング等）	グループワーク 発表、ポスター作成			資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート					
15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合があります。詳細は授業内に説明します。											
評価方法及び評価基準	<p>定期テスト80%とレポート20%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 3分の1以上（5回）欠席した学生は評価の対象としない。 										
課題等	精神障害者の人権に取組んだDVDを視聴し、レポートを作成する。オンライン授業アプリにより課題を提出する。										
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 予習、復習各90分以上の学修すること。 事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。 授業で示された課題・問題について整理し、解決に努めること。 										
教材教科書参考書	<p>【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024〔令和6年版〕』</p>										
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得の指定科目（旧カリキュラム対象学生向け）である。										

科目名	精神保健福祉援助技術各論B		科目コード	W32027	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWPF3-10.	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉実践領域科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業	講義	単独	
	精神保健福祉士指定科目	必修					形態			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉における歴史的展開と現在の活躍場所とその内容を学ぶ。 精神障害者の生きづらさとは何かを学び、それを踏まえたうえで精神保健福祉士の専門性について理解する。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 精神医療福祉の歴史と動向と精神保健福祉士における活動の歴史を説明できる。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉士における活動の歴史			精神保健福祉に関する海外と日本の動向を踏まえ、自立生活支援と精神保健福祉士の流れについて学ぶ。						
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①			ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術						
第3回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②			ソーシャルワークの展開過程						
第4回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要③			精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点						
第5回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①			1アウトリーチ:支援を求める、求めない当事者及び家族へのアプローチ、多問題・社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ						
第6回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②			2インテーク:主訴の把握、スクリーニング、契約						
第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③			3アセスメント:情報から情報分析・解釈、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性等						
第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④			4援助関係の形成技法						
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤			5面接技術とその応用						
第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥			6支援の展開(人、環境へのアプローチ)事例分析						
第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦			7支援の展開(ケアマネジメント)						
第12回	精神保健福祉分野における家族支援の実際①			1精神障害者家族の課題						
第13回	精神保健福祉分野における家族支援の実際②			2家族理解の変遷						
第14回	精神保健福祉分野における家族支援の実際③			3家族支援の方法						
第15回	多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)			連携の意義と目的						
授業方法(サテライト、7対1、グループワーク等)	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート					
	15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合があります。詳細は授業内に説明します。									
評価方法及び評価基準	<p>定期テスト80%とレポート20%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。 									
課題等	精神障害者の人権に取組んだDVDを視聴し、レポートを作成する。オンライン授業アプリにより課題を提出する。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 予習、復習各90分以上の学修すること。 事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。 授業で示された課題・問題について整理し、解決に努めること。 									
教材教科書参考書	<p>【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024[令和6年版]』</p>									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得の指定科目(旧カリキュラム対象学生向け)である。									

科目名	児童福祉論B		科目コード	W33002	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-02.	30時間						
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>子ども・家庭福祉に関する基本的な内容について学習する。 社会的養護を必要とする子どもやその家族の状況について学習する。 子ども家庭福祉領域に関する事例をもとに議論や検討を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	子ども家庭福祉に関する基本的な内容について理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	オリエンテーション・前期の復習			授業の進め方と、前期に行った講義の復習・おさらい。						
第2回	子どもの虐待①			子どもが受ける虐待と、それに伴う様々な影響について学ぶ。						
第3回	子どもの虐待②			子どもが受ける虐待と、それに伴う様々な影響について学ぶ。						
第4回	事例検討①			子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。						
第5回	社会的養護①			社会的養護の説明と、児童福祉施設についての説明、及び実際の現場においてどのような支援が行われているかについて学ぶ。						
第6回	社会的養護②			社会的養護の説明と、児童福祉施設についての説明、及び実際の現場においてどのような支援が行われているかについて学ぶ。						
第7回	社会的養護③			社会的養護の説明と、児童福祉施設についての説明、及び実際の現場においてどのような支援が行われているかについて学ぶ。						
第8回	家族支援			社会的養護における家族支援の内容について学ぶ。						
第9回	アフターケア			社会的養護におけるアフターケアの内容について学ぶ。						
第10回	事例検討②			子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。						
第11回	子ども家庭福祉とソーシャルワーク			子ども家庭福祉の領域において、ソーシャルワークがどのように展開されているかについて学ぶ。						
第12回	子どもの貧困			子ども陥っている貧困状況について学ぶ。						
第13回	若者支援・女性支援			子どもに関連する領域としての若者支援や女性支援についての現状を学ぶ。						
第14回	事例検討③			子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。						
第15回	まとめ			これまでのまとめ						
授業方法 (PBL、グループワーク、クイズ、小テスト)	PBL (問題解決型学習) グループワーク クイズ、小テスト									
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度30% (出席・リアクションペーパー・発言等) 期末試験70%									
課題等	適宜指示します。									
事前事後 学修	授業の進捗に合わせて、指定教科書の内容を予習・復習すること。									
教材 教科書 参考書	日本ソーシャルワーク教育連盟編集 (2021) 『最新社会福祉養成講座3「児童・家庭福祉」』中央法規 978-4-8058-8246-7									
留意点										

科目名	障害者福祉論B		科目コード	W33004		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-05.							
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	齊藤 隆之			授業 形態	講義	単独		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解する。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解することができる。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解することができる。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切なあり方を理解することができる。多職種の専門職と連携して障害者の基本的な相談支援に対応できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	オリエンテーション		障害者福祉論Aの復習、授業の進め方						Teams使用・講義・ディスカッション		
第2回	障害者の福祉と労働①		働くことの意味、障害者の就労実態						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第3回	障害者の福祉と労働②		労働保障の制度（障害者雇用促進法等）、障害者の権利条約						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第4回	障害者の所得保障①		障害者の低所得性、障害基礎年金、社会手当						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第5回	障害者の所得保障②		労災制度、生活保護制度、負担軽減措置						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第6回	障害者の社会生活参加①		障害者の社会参加の実態、世論の障害理解の実態						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第7回	障害者の社会生活参加②		バリアフリー環境の整備						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第8回	障害児の福祉サービス①		子どもの権利条約、障害者権利条約						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第9回	障害児の福祉サービス②		母子保健法、児童福祉法の改正						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第10回	障害福祉の整備計画と障害者運動①		障害者権利条約と国の責務の縮小						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第11回	障害福祉の整備計画と障害者運動②		国・地方公共団体の役割、障害者福祉計画と障害者参加						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第12回	障害者福祉現場で働く職員①		職員配置基準、相談支援専門員						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第13回	障害福祉現場で働く職員②		サービス管理責任者、サービス提供責任者、国家資格						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第14回	障害者相談支援の臨床事例①		知的障害者の地域生活における事例、身体障害者の事例に学ぶ						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション		
第15回	障害者相談支援の臨床事例②		精神障害者の長期入院の事例、てんかんで失職後就労した事例に学ぶ レポート課題						Teams使用・講義・ディスカッション		
授業方法(わ せ り び ん ぐ 等)	誘導ディスカッション	リフレクションシート	授業中のノート取り	理解度チェック							
評価方法及び評価基準	<p><基礎点> 定期試験90点 (a) <加算点> 発言点+グッドコメントポイント (上限15点) (b) レポート課題1回 (上限5点) (c) <評価> (a) + (b) + (c) の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>										
課題等	レポート課題については、Microsoft Teams上でフィードバックを行う。										
事前事後学修	本授業では反転学習を基本とするため、毎回の講義時に次回までの予習事項について指示を行う。事前準備学習を次回授業までに30分×5日程度行うこと。復習は当該回のリフレクションシートを活用して授業の振り返り（30分以上）を行うこと。										
教材教科書参考書	教科書：新・社会福祉士シリーズ『障害者福祉』弘文堂の第6章から第12章を講義。【ISBN】 978-4-335-61230-5										
留意点	本授業ではPC、タブレット、スマートフォン等を使用するため、バッテリー等の消費に各自対応できるよう準備を行うこと										

科目名	公的扶助論B		科目コード	W33008		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-11.							
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。 公的扶助論Bでは、公的扶助論Aで学んだ基礎を踏まえ、生活保護行政が抱える種々の課題に関し、より深く取り上げることとする。わが国の公的扶助制度が、権利的保障の完全なる確立にまで昇華する為の課題を共に考えることとする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<p>到達目標は、以下の3点である。 ①わが国の公的扶助制度が抱える問題点とは何かを他者に説明することが出来る。 ②公的扶助を権利的保障の制度へと更に昇華させる為の具体的な対策等を提示できる。 ③公的扶助に悪影響を与え続けているスティグマの除去の為、私たちは何が出来るかを考え行動することが出来る。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	公的扶助の課題の整理			公的扶助が抱える数々の課題に関し理解する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第2回	公的扶助制度の諸課題①（生活保護法）			生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第3回	公的扶助制度の諸課題②（生活保護法）			生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第4回	公的扶助制度の諸課題③（福祉事務所）			生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第5回	公的扶助制度の諸課題④（福祉事務所）			生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第6回	公的扶助制度の諸課題⑤（国）			生活保護法が抱える課題を国の動向から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第7回	公的扶助制度の諸課題⑥（民）			スティグマの理解を踏まえた上で、生活保護法と民との関係性と課題を整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義 9回目以降のグループ編成		
第8回	公的扶助制度の諸課題⑦（民間団体）			貧困に抗する活動を続ける民間団体に関する理解を深める。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う					講義		
第9回	グループ発表会準備①			これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第10回	グループ発表会準備②			これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第11回	グループ発表会準備③			これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第12回	グループ発表会準備④			これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第13回	グループ発表会①			これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う					プレゼンテーション		
第14回	グループ発表会②			これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う					プレゼンテーション		
第15回	グループ発表会③			これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う					プレゼンテーション		
授業方法(ウェブ、iPad、7分45秒、7分45秒、7分45秒)	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り						
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度20%、グループ発表会での参加度30%、試験50%で評価する。試験は、ある事例を用いて課題解決に向けたプラン作成を求めるものとし、能動的に知識獲得及び活用が図られているかを問う。グループ発表会では、グループに分かれ公的扶助制度を前進させる為の課題とそれに関する解決策を作り上げクラス内で発表し、意見交換を行う。その際の取り組み状況、発表会への参加度等を評価の対象とする。</p>										
課題等	<p>レポート課題及び試験はTEAMS上で提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題及び試験を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。</p>										
事前事後学修	<p>毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為必須となる。</p>										
教材教科書参考書	<p>伊藤秀一編著『貧困に対する支援』弘文堂、2022年（ISBN 978-4-335-61221-3）</p>										
留意点	<p>9回目以降予定しているグループ発表会のいずれかの回でも遅刻・欠席した場合、原則として30%分の減点として対応するので、注意すること。</p>										

科目名	社会福祉行政論		科目コード	W33029	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-16.	時間	30時間					
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織・専門職との関係を分析し、問題点を考察します。社会福祉行政論には、部分的ではあるが、政治の知識がある程度あったほうがよい。政治学A・Bをまだ取っていない学生は、できれば履修してほしい。これからも医療福祉関連の予算は膨らんでいきます。こうした中でも、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や活発なボランティア活動がなぜ必要なのかについても学んでいきます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	・社会福祉行政を国家論および官僚制論から見ていくことができるようにします。 ・スペシャリスト、エキスパート、「専門職」、専門職の関係を理解し、自らの指針に磨きをかけます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	講義の概要と展開			本講義の概要、展開、そして試験等について説明。						
第2回	福祉国家と行政国家と「大きな政府」の違いと共通点			福祉国家とは、福祉行政や関連する行政が増大した国家、行政国家とは3権の中で、行政部門が肥大した国家、「大きな政府」とは、あらゆる行政が肥大した国家です。共通点はいずれも行政費用の増大をまねきます。						
第3回	日本の福祉行財政の歴史的展開と今後			戦後から1990年代までの福祉行政と2000年代からの福祉行政では、その理念や具体的政策が大きく変わった。						
第4回	社会福祉行政と地方公共団体			変わった点は、地方自治体の役割が非常に大きくなりました。措置から契約へとほぼ政策理念が変わり、多くの社会福祉法人や民間企業が社会福祉事業に関わることになりました。						
第5回	介護保険制度と行政			社会福祉政策の中でも大きく変わったのが高齢社会に対応した介護保険制度が取り入れられたことです。						
第6回	社会福祉事業と事業者に対する指揮監督			政策に契約理念が採用されたため、たくさんの高齢者施設やサービス事業が社会福祉法人や民間企業によってできました。契約どおりにサービス提供ができない場合、行政の指揮監督がなされることも。						
第7回	社会福祉の費用と財源			社会福祉の費用と財源は、基本的には国の税金と国民の介護保険料等で賄われます。その他には、寄付金などがあります。						
第8回	ガバナンスと制度改革			数年前の制度改革は、組織のガバナンスを強化する方向性が打ち出された。このガバナンスの理解と制度改革の方向性を考える。						
第9回	制度改革 1			改正前と改正後の比較から考える。						
第10回	制度改革 2			その2						
第11回	社会福祉の専門諸機関			社会福祉の専門諸機関を行政組織として分析し考える。						
第12回	相談過程と地域の相談システム			2000年以降の発展過程を中心に考える。						
第13回	専門職の専門性			専門職の専門性について、行政統制（行政責任）論と専門性の2方向性から考える。						
第14回	社会福祉専門職			前回の専門職論から考察すると、社会福祉の各専門職は、どのように分類可能かを考える。						
第15回	まとめと試験			講義全体のまとめと試験						
授業方法(レ ポート、プレゼン テーション等)	行政は、社会福祉サービスをどこまで担えるかについて意見交換をしていく。									
評価 方法及び 評価 基準	試験とその前提としての出席。試験の点数は、2回までの欠席が減点なし、3-5回が1回につき5点減点。									
課題等	社会福祉行政が現実の政治（議会）と行政と常に絡んでいる部分を講義の中で一緒に探っていきましょう。									
事前事後学修	・講義の前日は、福祉に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、印刷した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材 教科書 参考書	・教科書：池村正道編集『福祉行財政と福祉計画』（社会福祉士シリーズ10）弘文堂、2020年（第4版）ISBN:978-4335612053									
留意点	第1回目を欠席する学生は事前に連絡をして下さい。									

科目名	福祉計画論		科目コード	W33030	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-17.	時間	30時間				
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 官僚制の下で、計画が組織化されていくことの意義を認識し、その長所と短所について理解。100年以上も前、ドイツのM.ウエーバーは、未来の人間のほとんどの活動は組織に動かされていくと著書の中で述べています。その組織の長所と短所について理解に努めて下さい。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	官僚制と計画の関係を理解し、福祉計画に関する長所と短所を学びます。行政責任（行政統制）論を理解し、福祉計画の評価と監査の違いの理解に努めて下さい。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	講義の概要説明		講義の概要、計画、試験等について説明。							
第2回	計画とは何か		計画の基本的理解と我が国戦後の国家的計画の歴史を学びます。							
第3回	行政計画と福祉計画		行政福祉計画と社会福祉法人等の福祉計画の理解。							
第4回	福祉計画の策定過程とその方法		PDCAサイクルの基礎的理解とその策手方法の理解。							
第5回	評価と監査の違いとアカウンタビリティ		アカウンタビリティの分析により、評価と監査の違いと人間の自発性を考えます						アカウンタビリティについてワークショップ。	
第6回	福祉計画の評価方法		福祉計画の方法と評価と監査の違い							
第7回	福祉計画におけるニーズとは		福祉計画におけるニーズを類型化して理解。							
第8回	ボランティア（NPO）と福祉計画		ボランティアを福祉計画にどのように絡めるのかを理解。							
第9回	地域の伝統文化と計画		地域の伝統文化には、地域の多くの住民が長年親しんで来ている。そうしたぶんかをどのように福祉や福祉計画にからめるとかを考えます。							
第10回	具体的な福祉計画		様々な活動をどのように福祉活動として計画に取り入れていくのかを考察。							
第11回	住民参加と福祉計画		地域住民が福祉や福祉計画について考える意義について理解。							
第12回	クライアントの自発性と福祉計画		福祉の業務やボランティアに関わる人々が、クライアントは何もできないと思っはいけない。クライアントは特技を持っている場合が多い。その自発性の尊重と福祉や福祉計画を考察。							
第13回	スペシャリストとジェネラリストと福祉計画		集団や組織にはスペシャリストとジェネラリストの能力がめか決。あるいは双方の能力を持つ人がいてもいい。福祉計画を策定していく際に、これをいかす方法を考察。							
第14回	ケアの理念と福祉計画		福祉に携わるあらゆる専門職や一般の人々のケアの理念について考えます。							
第15回	まとめと試験		福祉計画論のまとめと試験。							
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	社会福祉にとって、そのサービスはどこまで計画可能なのかを考え、意見交換を行う。									
評価方法及び評価基準	ワークショップ（30%）と試験（70%）									
課題等	これまで経験してきた学校内、校外の作業、ボランティアなどを思い出しながら講義を受けてください。、									
事前事後学修	講義の前日は、パソコンやスマホなどでボランティア活動などの情報を読んでみてください。									
教材教科書参考書	社会福祉行政論の教科書と同じ。									
留意点										

科目名	医療ソーシャルワーク論		科目コード	W32006		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-19.							
区分	社会福祉分野領域科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 保健医療関連の制度とサービスを踏まえて、医療ソーシャルワーカーと関連職種の基本的な役割を学ぶ。そのうえで、ソーシャルワークにおける在宅医療・福祉の視点から患者本人の支援方法を学生が主体的に学ぶことを目的としている。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 ・保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ・保健医療領域における医療ソーシャルワーカーの役割と、連携や協働について理解する。 ・保健医療に課題を持つ人に直接的、間接的な医療ソーシャルワーカーの支援方法を理解する。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 医療ソーシャルワーカーの意義			授業概要の説明、わが国の少子高齢化の現状と問題点 疾病構造の変化 ・ 感染症の減少 ・ 生活習慣病の増加							
第2回	医療施設から在宅医療			在宅医療の役割と課題							
第3回	保健医療における福祉的課題①			依存症、認知症、自殺企図、虐待防止①							
第4回	保健医療における福祉的課題②			依存症、認知症、自殺企図、虐待防止②						プレゼンテーション	
第5回	医療施設の概要			病院(特定機能病院、地域医療支援病院等)、診療所などの病院や病床の機能分化を学ぶ							
第6回	保健医療領域における専門職			専門職種役割・分類を理解する(医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、居宅介護従事者等)							
第7回	保健医療領域における社会福祉士の役割			医療ソーシャルワーカーの業務指針を学ぶ							
第8回	保健医療に係る倫理			患者本人の自己決定権の尊重にかかわる医療倫理の6原則を学ぶ							
第9回	保健医療に係る倫理			保健医療にかかわる倫理的課題を学ぶ(高度生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植、尊厳死、身体抑制)							
第10回	保健医療領域における支援の実際①			疾病及びそのリスクがある人を理解する(入院・退院時の支援、在宅医療における支援)						ロールプレイング	
第11回	保健医療領域における支援の実際②			救急・災害現場における支援と終末期ケア及び認知症ケアにおける本人と家族の支援方法を学ぶ						発表、ポスター作成	
第12回	保健医療対策の概要			保健所の役割と地域医療の指針(5疾病、5事業、薬剤耐性(AMR)対策)を学ぶ							
第13回	医療保険制度の概要①			さまざまな社会保障制度を学ぶ(無料低額診療事業、労災保険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度)							
第14回	医療保険制度の概要②			診療報酬制度の体系を学ぶ							
第15回	まとめ			医療ソーシャルワークの実践事例から支援方法を学ぶ							
授業方法(予 め、7分 ブレインギ ング等)	ロールプレイング	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート						
	15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合があります。詳細は授業内に説明します。										
評価 方法 及び 評価 基準	<p>テスト80%とレポート20%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 ・3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。 										
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアに関するDVDを視聴し、レポートを作成する。 ・レポート課題はオンライン授業アプリにより提出する。 ・レポート作成後に次の講義でフィードバックし理解を深める。 										
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配付された資料を踏まえて用語の意味を調べたり、関連する文献や新聞などの資料を読んだりして予習する(90分程度)。 ・授業で示された課題・問題について整理し、解決に努める復習をすること(90分程度)。 										
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】日本医療ソーシャルワーク研究会「医療福祉総合ガイドブック〈2025年度版〉」医学書院 【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023〔令和7年版〕』</p>										
留意点	この授業は、医療ソーシャルワーカーを目指す学生、または保健医療関係の興味ある学生の履修が望ましい。										

科目名	精神保健福祉制度論B		科目コード	W33022	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-23.						
区分	社会福祉分野領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉制度論Bは、精神保健福祉士が精神障害者のおかれた状況や抱える問題理解していく上で、精神保健福祉法の理解は不可欠である。そこで、精神保健福祉法の目的および対象として、法律の目的、法律の対象、精神保健福祉センターなどの規定について概説する。また、心神喪失者等医療観察法や更生保護法から司法・医療・福祉の連携について説明する。さらには、精神保健福祉士の専門職性とその研究から学んだ社会調査（量的調査法、質的調査法）についても概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	精神保健福祉士は、精神保健福祉法を活用して精神障害者の社会的復権の実現を図っていく必要がある。そこで、精神保健福祉法の運用の基本法律である精神保健福祉法について詳細に学び、いつでも活用できるよう身につけておく。また、近年改正された精神保健福祉法の中で、保護者制度の廃止、地域移行支援に向けた法整備など学ぶ。さらには、司法・医療・福祉の連携や、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	精神保健福祉法の概要①			第1条：法の目的、第2条：国及び地方公共団体の義務、他				視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神保健福祉法の概要②			第19条の7：都道府県立精神科病院、 第19条の8：指定病院、他				視聴覚（スライド）使用		
第3回	精神保健福祉法の概要③			第29条：措置入院、第30条：費用負担、他				視聴覚（スライド） 使用		
第4回	精神保健福祉法の概要④			第33条第1項：医療保護入院、第33条の7：応急入院、他				小テスト① 視聴覚（スライド） 使用		
第5回	精神保健福祉法の概要⑤			第34条：医療保護入院のための移送制度、第45条：精神障害者 保健福祉手帳、他				視聴覚（スライド） 使用		
第6回	医療観察法の概要と実際①			医療観察法の目的等、医療観察法の合議制、他				小テスト② 視聴覚（スライド） 使用		
第7回	医療観察法の概要と実際②			医療観察法の流れ、医療観察法の抗告、他				視聴覚（スライド） 使用		
第8回	医療観察法の概要と実際③			医療観察法の指定医療機関、医療観察法の精神保健観察				小テスト③ 視聴覚（スライド） 使用		
第9回	医療観察法の概要と実際④			医療観察法の抗告、医療観察法の実際				視聴覚（スライド）使用		
第10回	医療観察法の概要と実際⑤			保護観察所の業務、社会復帰調整官				小テスト④視聴覚 （スライド）使用		
第11回	司法・医療・福祉の連携①			更生保護対象者の特徴、				視聴覚（スライド）使用		
第12回	司法・医療・福祉の連携②			司法・医療・福祉の連携の必要性と実際				視聴覚（スライド）使用		
第13回	司法・医療・福祉の連携③			更生保護に関する新たな施策、社会内処遇の今後				小テスト⑤視聴覚 （スライド）使用		
第14回	社会資源の調整開発にかかわる 社会調査①			精神保健福祉士の専門職性に関する研究 （研究目的、研究方法など）				視聴覚（スライド）使用		
第15回	社会資源の調整開発にかかわる 社会調査②			アンケート調査による量的調査方法、質的調査方法				視聴覚（スライド）使用		
授業方法（わ てマド、アティ ブ・テニング等）	資料記入	クイズ、小テスト	授業中のノート取り							
評価 方法 及び 評価 基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉法、医療観察法、更生保護法などについてどの程度理解したか評価する。									
課題等	精神保健福祉法から医療観察法については、復習小テストを5回実施する。小テストの実施により、理解の深化を図る。									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉法詳解、更生保護制度などを調べ補足する。									
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座第6巻 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 第6版 中央法規出版									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									